

・・・平成25年度決算概要について・・・

自動車運送事業

総 常 収 入	195億81百万円
総 常 支 出	168億34百万円
経 常 損 益	27億47百万円
利 益 利 率	18億20百万円
△ 累 積 資 金 不 足	△9億91百万円

主な業務量等

年度末在籍車両数	788両 (764両)
走 行 距 離 数	81,1千km (81,0千km)
1 日 平 均 1	(81,0千km)
旅 客 数	326千人 (321千人)
1 日 平 均 1	(321千人)

注 () 内は、平成24年度の数値である。



高速鉄道事業

総 常 収 入	284億38百万円
総 常 支 出	324億93百万円
経 常 損 益	△40億55百万円
現 金 収 支	73億40百万円
(現 金 収 支)	
△ 累 積 欠 損 金	△31,168億21百万円
△ 累 積 資 金 不 足	△309億16百万円

主な業務量等

年度末在籍車両数	222両(37編成)
走 行 距 離 数	56,5千km (56,9千km)
1 日 平 均 1	(56,9千km)
旅 客 数	348千人 (339千人)
1 日 平 均 1	(339千人)



1 決算の概要

平成25年度決算は、収入面では、旅客数について、市民の皆様方に、全庁を挙げて推進している「歩くまち京都」、公共交通優先のまちづくりの取組にご理解、ご協力いただいくとともに、観光系統の増便や、便利で分かりやすいダイヤの充実に取り組んだ結果等により、前年度から1日当たり4千3百人増加した。

一方、支出面では、人件費の抑制やバス車両更新台数の抑制等によりコスト削減に努めた。

その結果、経常損益は、前年度より1億46百万円黒字が増加し、

注目!

27億47百万円の黒字となった。

これにより、前年度に10億35百万円あった累積欠損金は解消し、18億20百万円の利益剰余金が生じるとともに、累積資金不足についても、過去最大の約144億円(平成17年度)から9億91百万円にまで縮小し、一般会計の任意補助金に頼らない自立した経営の実現に向けて大きく前進した。

2 主要事項

(1) お客様増加策

ア 便利で分かりやすい市バス路線・ダイヤの編成と発信

【25年3月実施の運転計画】

・公共施設へのアクセス向上や鉄道駅（JR桂川駅）との乗継利便性向上

・観光系統（洛バス101号、水族館シャトル）の運行充実

【26年3月実施の運転計画】

・輸送力の増強

洛バス101号や市内中心部の循環系統の増便、直行系統「四条河原町ショッピングライナー」の新設、丸太町通・大手筋通における等間隔運行の開始など

・地下鉄をはじめとする鉄道との結節強化

・京都駅、桂駅を24時に発車する「深夜バス」の試行運行や夜間ダイヤの充実

・地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充

・利便性向上と分かりやすさ向上の取組（停留所への付加呼称設定や名称変更）

イ 新たなデザインによる分かりやすい案内表示

・主要幹線道路に「ラインカラー」を設定し、バス車両（行き先表示・車内路線図等）や停留所の各種案内サインに表示するなど、デザインの一新

・京都駅前バスターミナルにおける案内サインの一新、発車予定期刻等を表示する総合案内板やバス接近表示器の設置など、のりば全体の旅客案内機能の充実

(2) お客様サービスの向上

ア バス待ち環境の向上

・広告付きバス停上屋、バス接近表示器及びベンチの整備の推進

イ 嵐山・嵐山地域における均一運賃区間の拡大

ウ 市バスICカードシステムの整備着手（26年度導入予定）

エ 「洛バス」のラッピングリニューアル

オ 定期券購入時のクレジットカード対応の開始

(3) お客様接遇向上と安全運行の推進

ア 運転士の接遇向上・安全運行研修と運行管理者の指導能力向上研修の実施

イ 事故防止重点強化策の実施（違法駐停車への啓発による走行環境の改善）

ウ ドライブレコーダーの全車導入（25年度設置完了）

(4) コスト削減策

ア 総人件費の削減

イ バス車両購入費の削減

更新年数を14年から18年へ延伸したうえで、個々の車両状態を徹底的に点検精査し、更新車両数を抑制（平成21～25年度の累計：更新計画108両 実績77両）

3 財政状況

項目	年度		
	前年度決算比較（消費税抜額）		
	24年度決算	25年度決算	増 / 減
総 常 収 入	188億22百万円	189億16百万円	+94
総 常 支 出	177億90百万円	179億31百万円	+144
経 常 外 収 入	10億32百万円	9億82百万円	-50
経 常 外 支 出	8億25百万円	6億65百万円	-160
常 収 入	196億47百万円	196億81百万円	+34
常 費 用	168億32百万円	166億31百万円	-198
経 常 人 件 費	67億38百万円	65億38百万円	-200
勤 勤 手 当	7億00百万円	5億02百万円	-298
経 費	84億34百万円	88億76百万円	+42
減 価 捨 却 費 等	9億60百万円	9億18百万円	-42
常 費 用	21億14百万円	20億90百万円	-14
支 汽 車	170億46百万円	168億34百万円	-112
差 引	26億01百万円	27億17百万円	+146
特 別 損 益	12億	10億08百万円	-96
再 引 (純損益)	26億13百万円	28億55百万円	+242
利 益 利 余 金 (△累積欠損金)	△10億35百万円	18億20百万円	+28億55
資 本 的 以 及 び 有 価証券	9億19百万円	13億48百万円	+429
支 汽 車	28億67百万円	28億69百万円	+2
差 引	△19億43百万円	△15億21百万円	-127
累 積 資 金 不 足	△32億48百万円	△9億91百万円	-2257
資 金 不 足 比 率	17.2%	5.2%	△12.0%

4 企業債の状況

項目	年度		25年度末 未償還残高	年度内 増 / 減		25年度末 未償還残高
	24年度末	未償還残高		発 行 額	償 繰 額	
建設企業債	52億25百万円	11億55百万円	11億27百万円	28百万円	52億53百万円	

高速鉄道事業

総 常 収 入	284億38百万円
総 常 支 出	324億93百万円
経 常 損 益	△40億55百万円
現 金 収 支	73億40百万円
(現 金 収 支)	
△ 累 積 欠 損 金	△31,168億21百万円
△ 累 積 資 金 不 足	△309億16百万円

主な業務量等

年度末在籍車両数	222両(37編成)
走 行 距 離 数	56,5千km
1 日 平 均 1	(56,9千km)
旅 客 数	348千人
1 日 平 均 1	(339千人)

注 () 内は、平成24年度の数値である。

1 決算の概要

平成25年度決算は、収入面では、旅客数について、市民の皆様方に、全庁を挙げて推進している「歩くまち京都」、公共交通優先のまちづくりの取組にご理解、ご協力いただいくとともに、観光系統の増便や、便利で分かりやすいダイヤの充実に取り組んだ結果等により、前年度から1日当たり4千3百人増加した。

一方、支出面では、人件費の抑制やバス車両更新台数の抑制等によりコスト削減に努めた。

その結果、経常損益は、前年度より1億46百万円黒字が増加し、

注目!

一方、支出面では、総人件費の抑制をはじめ、コスト削減の取組を着実に進めた。